

ぶらり散策 インタビュー

奈良県立図書館

奈良市大安寺1丁目1000番地 TEL:0742-34-2111(代表)
●JR奈良駅から奈良交通バス22系統(県立図書館行き)乗車 終点下車すぐ
●近鉄新大宮駅からエヌシーバス8系統(四条大路南町行き)乗車
県立図書館西口下車 徒歩約3分



広々として落ち着いた雰囲気の内。



乾 聡一郎 (いぬい そういちろう)
奈良県立図書館
総務・企画グループ 企画・広報担当

図書館建設準備(主としてソフト面の整備を担当)を経て、2005年11月の開館後は、主に企画展やイベントの企画・運営や広報を担当。



〈インタビュー〉
荻野 まどか (おぎの まどか)

教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース2回生
京都府立南陽高校出身
学生広報スタッフ「なっきょん's CLUB」



気軽に図書の検索や相談にも応じてくれる。



インテリアにも快適さへの気配りが感じられる。



昨年9月、本学と相互協力に関する協定を結んだ『奈良県立図書館情報館』。この協定締結により、双方の蔵書の相互貸し借りが可能になりました。
単に図書の貸し出し業務にとどまることなく、奈良県や県民に関する企画などを展開する奈良県立図書館で話を聞きました。

「館内はすぐ明るくて斬新ですが、いつ頃設立されたのですか。」

もともと奈良県文化会館内にあった県立奈良図書館と、橿原公園内にあった県立橿原図書館を統合して、2005年11月にここに設置されたので、今年で5年目になります。

「地域と連携した講座が多く開かれています。今後どのようなものを予定されていますか。」

千田総館長の公開講座を年に六回行っているほか、寄席を開いたりもしています。パソコン教室も月に一回ほど入門教室を開いています。その他には、「自分の仕事を考える3日間」と題したフォーラムを開いています。

また、メインエントランスではクラシックコンサートなどを開くこともあるんですよ。チェロや弦楽四重奏、ソプラノ、さらに民族音楽のコンサートを開催したりもしています。

現在約55万冊の蔵書を備えています。
「図書館では、一日にどれくらいの利用者数があるのですか。」
約1,800人の方に利用していただいています。実は、一番利用が多いのが20歳代と30歳代の方です。設立当初から、社会の第一線で活躍されている方に多く利用してもらっているような「大人の図書館」を…との構想も一つあったので、その構想に沿った形で進んできているのかな、と感じています。また、パソコンが使える環境が整っているため、WEBメールを利用する外国の方も多いようです。

「パソコンが設置された机でレポートを作成されている方や、持ち込んだパソコンを使っている利用者の方も多く見受けられますね。」

社会的にインターネットの活用が増えてきていることもあり、活字メディアとWEB情報を一緒に利用いただけるよう、約410席ほどの閲覧席の約半数では、端末席や持ち込みパソコンが接続できるようにしています。それらを利用して、学生さんや社会人の方がレポートを作成されていることも多いです。

これまでの図書館だと、パソコン端末と言えはインターネット利用が多かったと思いますが、当館にはCD-RやUSBメモリなどのメディアを持ち込んで使っていたこともできず、活用の幅は広いと思います。

新たなニーズ・出会いを提案していく図書館に

「寄席やクラシックコンサートなどは、個人的に行くには少し敷居が高いように感じるので、それらが身近な図書館で開かれているというのは、すごく魅力的ですね。」

そうですね。当館のような公共図書館は、特に目的がなくても足を運べる…というのが一つの良さでもあると考えています。

実は、ここでも月一回「医療健康相談」というのもやっているんです。近くの病院の院長先生に来ていただき、相談に応じてもらっています。もちろん診療行為ではないので、白衣は着ておられません(笑)。ちょっと聞きたかったことを抵抗なく相談してもらったことができます。それから「仕事相談」も開いています。ハローワークに行くとなると大袈裟になってしまいますよね。図書館に来て、相談会をやっているから少し聞いてみよう、というように気軽に利用してもらっています。

今までのように、公共図書館にやってくる人々のニーズに応えるだけでなく、利用者を触発し「新たなニーズを開拓していく」「新たな出会いを提案していく」というのが、当館の一つの大きな特徴だと思います。それを実現していくと、今までの図書や情報が詰まっている図書館

館内のスタジオで撮影からアフレコまで

「その他にも、スタジオやメディア編集ができる設備があると聞いたのですが。」

はい。当館には、オーサリンググループやアトリエ、デジタルスタジオといった、撮影や画像・動画の編集ができる設備が揃っています。たとえば、奈良に観光に来られた方が、旅先で撮影した写真や動画などをここで編集して、すぐにブログにアップしたりすることもできます。
実は、奈良出身の映画作家である河瀬直美さんの作品の一部も、このスタジオでアフターレコーディング(アフレコ)を行ったんですよ。

可能性を求める姿勢を評価された受賞

「このたび「Library of the Year 2009 優秀賞」を受賞されたということですが、どのようなところが評価された賞なのでしょう。」

この賞は、NPO法人「知的資源イニシアティブ」が、これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して授与しているものです。当館がこれまでにさまざまな企画やイベントを展開して、今までの図書館の活動を生かしながら、図書館の新しい可能性を求めていることに対して、評価をいただいたのだと思っています。

から、新たな可能性を持つものに広がっていくと考えています。

大学では出会えない本や情報に触れてほしい

「なるほど、利用者にとってもより活用の幅が広がってきますね。本学とは連携協定が昨年結ばれましたが、学生にはどのような利用を期待されていますか。」

図書館を大いに利用していただくことはもちろんのことですが、大学では出会えない種類の書籍や情報に触れていただければと思います。それに、デジタルスタジオなどをはじめとしたさまざまな施設があるので、そういう部分も大いに利用して欲しいですね。

「本日はお忙しい中、ありがとうございました。」



協定締結の様子(千田総館長【左】と荻野誠学術情報センター長)